

2014年度環境活動レポート

(対象期間：2014年 4月～2015年3月)



三同建設株式会社

作成日： 2015年5月14日

□ごあいさつ

環境方針 〈環境理念〉

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①電力及び燃料の二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）
 - ②廃棄物排出量の削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）
 - ③水道水使用量の削減(水資源の保全)
 - ④環境に配慮した製品・資材の購入を推進します
 - ⑤施工時の環境配慮を推進します
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。
4. この環境方針は、全従業員に周知・徹底します。

制定日： 2014年4月1日

三同建設株式会社
代表取締役社長 細川 恵吾

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
三同建設株式会社
代表取締役社長 細川 恵吾
- (2) 所在地
本 社 大阪府大阪市千代崎2丁目15-15
東京支店 東京都中央区京橋1-14-4京橋TSビル
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 田中 正浩 TEL: 06-6584-5528
連絡担当者 臼谷 恵幸・豊森 淳平 TEL: 06-6584-5528
- (4) 事業内容
鋼構造物解体工事業
- (5) 事業の規模
売上高 57億円
- | | 本社 | 東京支店 |
|-------|---------|------|
| 従業員数 | 54名 | 4名 |
| 延べ床面積 | 758.31㎡ | 45㎡ |
- (6) 事業年度 4月～3月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 三同建設株式会社
サイト: 本社、東京支店
対象外: 無し
活動: 鋼構造物解体工事業

□主な環境負荷の実績(全体)

項目	単位	2013年	2014年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	190,228	158,595
廃棄物排出量			
一般廃棄物量排出量	トン	1,653	1,615
産業廃棄物排出量	トン	223	485
総排水量	m ³	11,562	7,027

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.514 CO₂/kWh
※産業廃棄物排出量の増加に関しては元請現場における解体量の増加が原因

口環境目標及びその実績

(1) 全体（東京支店を含む）

項目		年度	基準年 (2013年)	2014年 通年		2015年	2016年
			(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO2		58,686	58,099	44,008	57,805	57,512
	基準年比			99%	76%	98.5%	98%
自動車燃料の二酸化炭 素排出量削減	kg-CO2		127,662	126,383	113,771	123,830	121,277
	基準年比			99%	90%	97%	95%
発電用燃料の二酸化炭 素排出量削減	kg-CO2		3,880	3,841	816	3,763	3,685
	基準年比			99%	21%	97%	95%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	190,228	188,323	158,595	185,398	182,474
一般廃棄物の削減	kg		1,653	1,636	1,615	1,611	1,603
	基準年比			99%	98.7%	98.5%	98%
産業廃棄物の削減 (建設混合廃棄物)	トン		223	221	485	349	347
	基準年比			99%	219%	98.5%	98%
節水	m ³		11,562	11,439	7,027	11,213	10,977
	基準年比			98%	61%	97%	95%
グリーン購入				実態把握	全体購入 費の15%	全体購入 費の20%	全体購入 費の25%
近隣への環境配慮				検討開始	事務所欄・ 現場欄を参 照	事務所・現場 で目標別途設 定	事務所・現場 で目標別途設 定

※発電用燃料に関しては元請現場での使用により大きく変動するので2013年度基準値で据え置く。

※産業廃棄物の2015・2016年度の目標値は2013年度2014年度実績の平均値をもとに算出。

※電力・節水に関しては2013年度基準値で据え置き様子を見る。

(2) 事務所（東京支店を含む）

項目		年度	基準年 (2013年)	2014年 通年		2015年	2016年
			(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO2		58,686	58,099	44,008	57,805	57,512
	基準年比			99%	76%	98.5%	98%
自動車燃料の二酸化炭 素排出量削減	kg-CO2		32,896	32,566	36,281	31,908	31,250
	基準年比			99%	111%	97.0%	95%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	91,582	90,665	80,289	89,713	88,762
一般廃棄物の削減	kg		1,653	1,636	1,615	1,611	1,603
	基準年比			99%	98.7%	98.5%	98%
産業廃棄物の削減 (建設混合廃棄物)	トン		0	0	0	0	0
	基準年比			0	0	0	0
節水	m ³		292	289	187	283	277
	基準年比			99%	65%	97%	95%
グリーン購入				実態把握	全体購入 費の15%	全体購入 費の20%	全体購入 費の25%
近隣への環境配慮 (環境に配慮した施工計画 の作成・作成率100%順 守)				100%	100%	100%	100%

※電力・節水に関しては2013年度基準値で据え置き様子を見る。

(3) 現場（東京支店を含む）

項目		年度	基準年 (2013年)	2014年 通年		2015年	2016年
			(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		94,766	93,817 99%	77,490 83%	91,922 97.0%	90,027 95%
発電用燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		3,880	3,841 99%	816 21%	3,763 97.0%	3,685 95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		98,646	97,658	78,306	95,685	93,712
産業廃棄物の削減 (建設混合廃棄物)	トン 基準年比		223 (2013年)	221 99%	485 219%	349 98.5%	347 98%
節水	m ³ 基準年比		11,270	11,150 99%	6,840 61%	10,930 97%	10,700 95%
近隣への環境配慮 (低騒音・低振動型重機の完全使用)				100%	100%	100%	100%

※発電用燃料に関しては元請現場での使用により大きく変動するので2013年度基準値で据え置く。

※産業廃棄物の2015・2016年度の目標値は2013年度2014年度実績の平均値をもとに算出。

※電力・節水に関しては2013年度基準値で据え置き様子を見る。

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) 事務所

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価(結果と次年度の取組内容)
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	◎		
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	継続	空調の温度調整以外は社内になりに浸透している。次年度は空調の温度の適正化をさらに進め、クールビズを早期に開始することで夏場の電力削減に努める。
・不要照明の消灯	○	継続	
・不要時のPC電源OFF	○	継続	
・クールビズ、ウォームビズの推奨	○	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	×		
・エコドライブの実践	△	継続	本社事務所での車使用が多かった為、本年度が数値目標の達成をできていないことから、次年度は公共交通手段を推奨し、車両使用を厳格化することで車の使用を抑えるようにする。
・積載オーバーをしない	○	継続	
・適正な車両整備	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○		
・分別の徹底	○	継続	分別に関しては各自の意識が向上してきている。次年度は正確な数量把握と、各自のゴミの持ち帰りを推奨する。
・重量把握	○	継続	
節水			
数値目標	◎		
・節水シールの貼り付け	○	継続	節水は各自意識できている。次年度も節水意識を継続して啓発していく。数値目標を当初より改善し、様子を見る。次年度次第で再度見直す。
・手洗い時、洗い物における日常的な節水の励行	○	継続	
グリーン購入			
・事務用品グリーン購入比率調査	○	継続	次年度は現状比率よりも高い水準を目標にする。
近隣への環境配慮			
・検討開始	○	継続	現状として出来ているが、環境に配慮を行った施工計画書の作成率を100で保てるようにする。

(2) 現場

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価(結果と次年度の取組内容)
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	◎		
・エコドライブの実践	○	継続	本年度は数値目標は達成できている。次年度も達成できるように不必要な車の使用を抑えるようにしていく。
・積載オーバーをしない	◎	継続	
・適正な車両整備	○	継続	
発電用燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○		使用のある月と無い月があった。次年度は年間使用料から発電用燃料の目標値を正確にする。
・不要時の停止	○	継続	
産業廃棄物の削減			
数値目標	×		数値目標を大幅に達成できず、次年度以降での数値目標を見直す必要がある。次期目標を2013年分と2014年分の平均値からの当初予定パーセンテージにて算出した数値に。
・発生量の抑制	△	継続	
節水			
数値目標	○		数値目標は達成できている。次年度も目標を達成できるように無駄な水使用は控えるようにする。現場数により変動が激しいので、次年度目標を当初より改善するが、大幅な見直しは見送る。
・無駄な使用を無くす	○	継続	
近隣への環境配慮			
・検討開始	○	継続	現状でも出来ているが、低騒音・低振動型の重機の完全使用を目標にする。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	特定建設作業
大気汚染防止法	特定粉じん排出作業・石綿排出作業
オフロード法	バックホウ、ブルドーザー、フォークリフト
フロン回収破壊法	業務用空調機
建設リサイクル法	解体工事

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

活動を開始して1年が経過しているが、社員全員へと意識を浸透するに至っていない。しかし、社内の環境への負荷を数値化することで、会社としてどれ程のエネルギーを使っているのかを再確認でき、そのことにより各個人の環境に対する意識は少しずつ改善されてきているように思います。今後もこの活動を継続していくことにより、社員への意識をさらに高め、また環境に対する責任を果たしていけるよう努めていきたいと思ひます。